

体験を活かす

都道府県	岐阜県	学校名等	岐阜聖徳学園大学附属小学校
名称	ネットの功罪 体験で学ぶ		
目標(狙い)	子どもたちへの情報モラル教育として、ウェブ用の機材を使用してネットの功罪を体験を通して学ぶ		
<p>(具体的な取組等の内容)</p> <p><b>【概要】</b></p> <p>岐阜聖徳学園大学附属小学校の6年生の教室の前には電子黒板が置かれ、30名の子ども達はそれぞれタブレット型端末を手にしています。これは「情報活用トレーニングノート(情トレ)」を用いた情報モラルの授業風景です。「情トレ」は実際にチャットを体験しながら学ぶ体験型の教材で、開発したのはこの授業を担当する岐阜聖徳学園大学の石原一彦教授です。</p> <p>授業では、正しい言葉遣いで書き込みをするように注意を受けた後で、まず実名を使って学級内でメッセージを送り合います。さらに石原教授が「次は匿名で書き込みをしてみよう」と提案し、匿名で書き込みを行います。しばらく体験した後で、チャットを終了し、実名と匿名の違いについて話し合います。児童たちからは、実名のやり取りでは発言に責任を感じるので良く考えて慎重に書き込みを行うが、匿名のやり取りはあまりよく考えずに書き込んでしまうという意見が出されました。</p> <p>ここで石原教授はインターネットでは、匿名掲示板でも解析すれば、誰が発言したか分かることを伝え、子ども達に了解を得た上で、実際に匿名のメッセージを実名に書き換えてみせます。子どもたちは、匿名で書いたものが実名で表示される体験を通してネットの仕組みを理解するのです。</p> <p>この教材は5章に分かれており(写真・図表等参照)、総時数は20時間に及びます。石原教授は「情報モラル教育の答えは今この授業の場にあるのではなく、子ども達が将来課題に直面した際に答えが求められるものであって、授業では話し合いの過程が重要」とし、予防教育の教材としてこの「情トレ」を作成されました。</p> <p>この授業は岡山県や三重県でも実施されており、実際に授業を実施すると児童たちの気づきや成長がよくわかるそうです。</p> <p>「情トレ」のもう一つの特徴は、HTML5で作られているのでブラウザが動けば、端末やOSを問わずに使用できることです。携帯電話やインターネットに本格的に触れる前から体験的な情報モラル教育を行うために2年半の時間をかけて開発され、平成年26年4月に「情報活用トレーニングノート」(石原教授監修)として公表され、市販されました。</p>			

**【実施時期・項目】**

平成 23 年 12～24 年 2 月：岐阜聖徳学園大付属小学校の授業で 20 回実施

平成 24 年 4～25 年 3 月：岐阜聖徳学園大付属小学校の授業で 20 回実施

平成 25 年 4～26 年 3 月：岐阜聖徳学園大付属小学校及び三重県、岡山県、広島県、東  
京都等で授業実施

平成年 26 年 4 月：「情報活用トレーニングノート」公表・市販開始

**【結果】**

体験授業を通じて、小中学校でネットの功罪を学ぶことができる体験型の教材を作成され、全国の小中学校等で活用してもらうために、公表され、市販されました。

写真・図表等



【授業中の石原教授】



【授業を受ける児童】

**デジタル版**  
**情報活用トレーニングノート**

PCで Tabで  
端末や OS を問わず、情報モ  
ールとリテラシーが学べる！  
年間に確保できる授業時間に  
合わせて学習内容を楽しん  
でいただける（教師用書に収録）！

監修  
石原一彦  
株式会社文芸堂  
開発協力  
株式会社コンセント

岐阜聖徳学園大学教授 石原一彦  
平成23年道に決りされた学習指導要領では情報活  
用能力の育成が数課題の一つであり、授業の場が  
広く活用されています。小中高等学校でそれぞれ指導す  
べき情報活用能力の内容を整理して系統化する際、それ  
ぞれの学校で授業に情報活用能力を身に付けさせるこ  
とが求められています。例えば、小学校の段階には従来の  
「調べねじり」と「基本的な操作」を「身に付ける」ものと  
して記述されました。これは、すべての児童に小学校レ  
ベルの情報活用能力を確実に身に付けさせ、中学校では  
小学校で習得した能力を土台にさらに高度な情報  
活用能力を身に付けさせようとしています。「情報活用  
トレーニングノート」はパソコンやタブレット上で動  
作するデジタル化された教材であり、小学校、中学校  
レベルの情報活用能力を高める内容を有するコンテ  
ントです。特定の国やデバイスに依存せず、どのよう  
なプラットフォームでも動作するように、紙と上で動  
作し、端末すべての児童や生徒が持つ各種の情報機器  
で動作するようにしました。

●情報トレーニングノートの内容  
情報トレーニングノートの内容は3つの内容に分かれています。1つ1つの内容は1単位時間(45分、50分)  
で授業中学習が行えるように工夫されています。

第1章 文字入力入門コース テーマ：文字入力/タッチタイピング 45 (50) 分×3期間  
文字を入力する際には正しい指使いがあるこ  
とを知り、キーボードから漢字や数字、記号な  
どを効率的に正確に入力できるように学習し  
ましょう。

第2章 情報を集めよう テーマ：情報検索 45 (50) 分×3期間  
画やインターネット、インターネットなどを活  
用して必要な情報を探し出す方法を学習しま  
しょう。

第3章 作品を大切に作る気持ち テーマ：著作権/肖像権 45 (50) 分×3期間  
自分の作品や人の作品を大切に作る気持ち  
に気づき、正しく作品や写真などを扱うルー  
ルを学習しましょう。

第4章 情報を正しく使おう テーマ：情報モラル 45 (50) 分×4期間  
情報社会で生活するためには、知事や偽つ  
けない情報発信の仕方を学ぶ必要があります。  
社会の一員としての責任をもちながら、情  
報ツールを活用する方法を学習しましょう。

第5章 情報と安全に接しよう テーマ：情報安全 45 (50) 分×5期間  
正しい情報、正しくない情報があることに  
気づき、情報と安全に接することが大切です。  
正しい情報をもとに安全で責任ある行動をす  
る姿勢を身につけましょう。

●情報トレーニングノートの主な活動

**読む！**  
コマ割りのマンガや短編文庫の読み物で、楽しく、  
わかりやすく学習内容や課題を把握することができます。

**考える！**  
授業の進捗に、終わりにクラスのみんなで情報  
のクイズをして、学習内容や課題を一緒に考え、話  
しあうことができます。

**体験する！**  
クラス内でチャットや掲示板、メールをやり取りしながら、情報ツ  
ールを実際に使って、使い方のルールを学ぶことができます。

**まとめる！ふり返る！**  
学習内容の課題をワークシートにまとめたり、学  
業の終わりに学習したことをふり返ることができます。  
また、ワークシートやふり返りシートは1年間  
を通じて自分の成長のデジタルポートフォリオとして  
蓄積することができます。

●教師向け指導教材  
情報活用トレーニングノートには、児童や生徒が使用する画面以外に、教師のための様々なツ  
ールを用意しています。

**充実の学習指導展開例！**  
授業、各授業時間ごとに指導展開例（指導資料）を用意しました。学習  
目標から活用するツール、児童・生徒への指導の仕方など、具体的な内  
容になっています。

**教師用管理メニューも完備！**  
授業を円滑に進めるための教師用の管理メニューを完  
備しました。授業の前段や授業中に活用することができます。

対象 学年：小学校4～6年・中学校1～3年  
製品 内容：学校ライセンス契約書（印刷用記載）、教師用指導資料、児童用専用ファイル  
価 格：43P 紙版  
機 種：PC、タブレットなど端末やOSを問わずお使いいただけます。  
その 他：Internet Explorer 等のウェブブラウザ  
発 行 予定：2014年4月1日  
※ただし、2013年秋のより全ての内容が揃っていただくことが可能です。

都道府県	埼玉県	学校名等	埼玉県立芸術総合高等学校
名称	「IT断食」からIT活用を考える		
目標(狙い)	一日スマートフォンなどのインターネット機器を使わない「IT断食」を行い、そこから感じたことを生徒同士で話し合っ、生徒自身がスマートフォンなどの使い方を見直すことを目標とした。		
(具体的な取組等の内容)			
<p><b>【概要】</b></p> <p>高校一年生を対象として、「ITを活用するにはどういう使い方をすればよいか」について考える授業としての取組。</p> <p>生徒は、夏休みの課題として、一日スマートフォンなどのインターネット機器を使わない「IT断食」を行い、そこから感じたことをグループで討議する。</p> <p>グループでの討議は、「協調学習」(※)により行い、IT機器の普及で衰えた能力、本当にIT機器でしなければならないこと及びIT機器の普及で行わなくなったことを考え、お互いに学びあうように議論を深化。</p> <p>知らないうちにIT機器へ依存していることに気づき、目的を持って有効に利用できるようになるとともに、直接顔を合わせるコミュニケーションの大事さを認識した取組。</p> <p><b>【実施時期】</b></p> <p>平成25年9月</p> <p><b>【先生の感想】</b></p> <p>「IT断食」は現高校三年生が一年生の時に始めたもので、今回で3回目となる。現二年生、三年生の中には自主的に「IT断食」に取り組む生徒もいるほど、「馴染んだ」取組になったと考えている。今回の授業では、最後に「IT活用3ヶ条」を各生徒に作ってもらったが、現二年生、三年生の中では、各家庭におけるルールを作る生徒もおり、本取組を通じて自分自身でIT活用について考える生徒が現れていることが、教師として嬉しい。</p> <p>「IT断食」を経験することで、生徒なりに、自分自身に適したIT利用や、時間のありがたさ、等考えるようになっていくと感じている。</p> <p><b>【生徒の感想】</b></p>			

- 1 普段ネットの中で友人と話をしていた分、家族と話す時間が増えた。
- 2 普段スマホを使っていた時間が空いたので、時間を多く感じた。
- 3 I p o dで聴いている課題曲が聴けず、不便さを感じた。
- 4 ピアノに充てる時間や集中力がいつもより多くなった。
- 5 辞書で調べものをするのも良いと感じた。
- 6 普段、リアルで話す時間が減っているような気がした。
- 7 空き時間が結構あるものだと痛感し、作業がこなせた。
- 8 スマホをしきりにいじりたがる自分を発見し、いかに依存しているかがわかった。
- 9 ゲームとネットに費やす時間が多いことを発見し、ネット依存かなと感じた。
- 10 自分自身で良く考えてI T機器を利用すべきと思った。
- 11 必要な資料をネットで調べられない不便さを感じる一方、I T機器がなくても生きてはいけると感じた。

#### 【その他】

本授業の最後に、生徒一人一人が、自分自身が今後I Tを活用する上で肝に銘じていかなければならない事項を「I T活用3ヶ条」にまとめた。今後の予定としては、各自の「I T活用3ヶ条」をベースにして学校におけるルールを策定する取り運びとなっている。

(※) 協調学習とは、一人一人がわかりかけていることをことばにして、対話の中で考えを深め、仲間の考えも結びつけて、問いに対して答えを出し、その先の新しい問いを探す力の育成を目指した学習方法。(東京大学 大学発教育支援コンソーシアム推進機構)